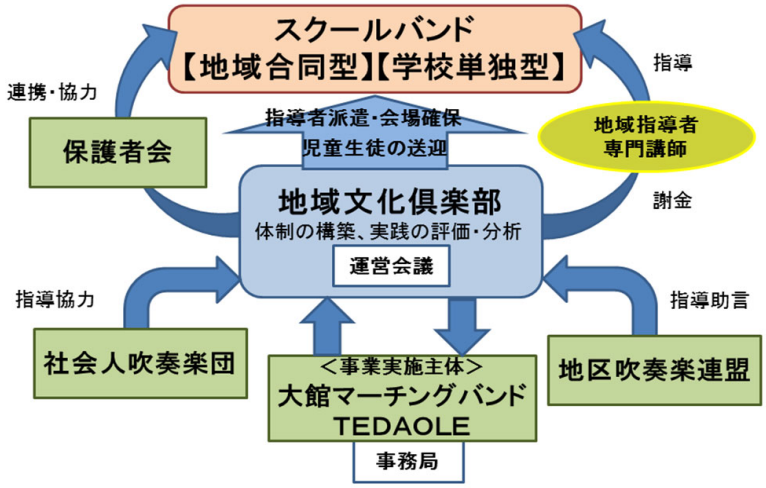
成果報告書

（地域文化倶楽部創設支援事業）

大館マーチングバンド　TEDAOLE（テダオーレ）

所在地	秋田県大館市	**設立年**	2013年
運営主体	大館マーチングバンド　TEDAOLE（テダオーレ）		
事業目標	吹奏楽の活動を学校教育の場から、年齢や世代にとらわれずに共に吹奏楽の楽しさに触れることのできる場、専門的な指導を受けて成長できる場へと移行する。 学校や関係団体、地域や保護者会と連携しながら、社会音楽の体制へ移行するための組織・運営方法を研究実践し、構築する。		
きっかけ	吹奏楽は学校の部活動として行う意識が根強い地域であり、音楽の社会教育化が進むには多くの課題を抱えている。市内の小・中学校が広域に点在していることから、学校以外の活動場所への送迎、地域指導者の確保、少子化による部員の減少、教師の働き方改革に伴う放課後指導や休日の地域行事への参加の難しさなどが挙げられる。 小学校でも運動部活動をスポーツ少年団に移行したことから、スクールバンドも地域の社会教育に移行したいとの学校の意向はあるものの、スポーツ少年団本部のような全体を統括する組織もないこと、楽器の維持管理、上位大会出場の遠征費補助などの予算確保を考えると、学校からの切り離しが難しい現状を抱えていた。 一方、本団体は国民文化祭を機に市が2013年に結成した合同マーチングバンドを母体としており、小学生・中学生・高校生・社会人が地区公民館を拠点に活動している団体であり、本事業を活用し、学校部活動から社会教育への移行を調査研究するため本事業に取り組んだ。		
団体・組織等の連携			
活動場所	大館市上川沿公民館		
活動概要	4月：事業説明（市校長会・教頭会、市吹奏楽連盟） 団員募集（各校にチラシ配付） 関係団体（社会人吹奏楽団等）への個別説明 5月：大館ジュニアバンド活動開始（平日1日、休日1日）、通信の発行（毎月末） 学校単独型への外部指導者の派遣開始（～1月） 6月：地区吹奏楽祭への出演 大館ジュニアバンドと学校単独型（2校）との合同練習、外部講師の指導 7月：秋田県小学生バンドフェスティバルへの出演 8月：夏季休業中の在籍校への指導者派遣 地域文化倶楽部運営会議①（紙面開催） 9月：地区演奏会の中止により、在籍校学習発表会出演に向けた練習 10月：大館ジュニアバンド＆TEDAOLEによる学習発表会での演奏（2校） 団員・保護者アンケート実施 11月：地区アンサンブルコンテストに向けた練習開始 12月：地区アンサンブルコンテストへの参加 地域文化倶楽部運営会議②（個別説明・聞き取り） 1～3月：新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動の中止 （地区公民館音楽祭・単独発表会の中止） 秋田県小学校管楽器研究会における事例発表 市校長会・教頭会での活動実績報告 地域文化倶楽部運営会議③		

○本事業による成果

・少子化により部員数が1桁になっている学校が増え、単独での演奏が難しくなっている。学校単位で、または、個人的な参加ができる受け皿（大館ジュニアバンド）を立ち上げたことで、たくさんの仲間と演奏する機会が保障された。本市における社会教育化の第一歩となった。参加の団員、保護者から喜びと感謝の声が寄せられた。（アンケート調査より）
・週に2回の練習日ではあるが、運営主体のテダオーレの団員（中学生から社会人まで）が、それぞれパート毎に指導しており、譜読みや音取りなどが効率よくできている。そのため、曲の仕上がりが早く、大人と一緒に合奏できる楽しさも味わえている。色々な世代、または、教師だけではない大人との交流が地域合同型の良さだとの感想が多かった。（アンケート調査より）
・大館ジュニアバンドは合同バンドではあるが、出演内容によっては、学校単位でグループを組んだり、テダオーレが協力しながら学校単独で学習発表会に出たりと、学校や保護者会の要望を随時、聞きながら柔軟な運用ができた。多様な発表の場は、関係者以外の地域や保護者にも活動を周知する機会となった。
・指導者はなかなか見つからない地域であるが、パートへの指導、行事までの一定期間など指導の条件を限定することで、指導者を確保できる見通しがもてた。
・夏季休業中には、派遣可能な地域の人材が学校に出向くなど、ニーズに応じて練習日を増やすことができた。
・参加している学校からは、指導もさることながら、運営や大会へのエントリー事務も担ってもらえることから、顧問教師の精神的、時間的な負担軽減につながった。
・地域文化倶楽部の試行として、市内13団体の運営状況を把握し、その都度、課題に対応することができた。特に、教育委員会と情報共有しながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための活動自粛期間を各団体に通知したり、市吹奏楽連盟からの大会や演奏会の諸連絡などの相談に答えたりと、他団体とのパイプ役を果たせた。地域文化倶楽部があれば助かるという信頼が築かれつつある。

○児童・生徒への指導に関する工夫

・色々な大人が随所で関わるよう、状況に応じて必要な場面で必要な指導者を事務局が選定、依頼、派遣した。
・学校の枠を越えて一緒に活動することができる環境作りとして、仲間作りには大人側の十分な配慮を要した。特に、学校での様子も聞き取り、大人側の接し方について共通理解した。
・「ジュニアバンド便り」を月末に発行し、団員が互いを知るきっかけになる情報も掲載した。今後の行事の見通しや練習計画を示すことで、主体的に取り組む姿勢も身に付きつつある。

○運営上の工夫

・大館ジュニアバンドにとって、メインとなる発表の機会である秋田マーチングフェスティバル大館大会＆音楽の広場（9月5日）が、新型コロナウイルス感染症の拡大により、やむなく中止となった。そのため、急きょ、発表の場を、ジュニアバンド参加校の学習発表会（9／26、10／17）に設定し、テダオーレとの合同演奏とした。
・運営会議を4月に開く予定だったが、コロナ禍により、関係者・団体には、個別に説明の機会を作り、紙面やメールでの回答により意見聴取をした。市校長会には、4月に事業説明、2月に実績報告と次年度の見通しを説明し、概ね理解を得ることができた。市吹奏楽連盟には、4月の総会で会長より説明いただいた。
・事務局として、テダオーレから3名が常時、事務の手続きや運営、予算管理を行い、他8名は指導面で参画した。他に、テダオーレOBなども部分的な指導に関わるなど、チームとして運営・指導に当たった。

○継続的な運営に関する課題・展望

・活動のための財源確保が一番の課題である。個人負担は、一人月1000円から2000円に団費を変更することで運営の見通しをもっている。しかし、学校団の場合には、市教育委員会から楽器購入費、上位大会への遠征費補助などがあるが、それらの予算をどのように確保できるのか、令和4年度に市教育委員会に対して「大館市地域文化倶楽部」創設に向けた組織の位置付け、予算等を要求していく。
・①地域合同型バンド（大館ジュニアバンド）は、団員40名募集での予算案だったが、現在14名。学校や保護者、地域への周知が不足であり、地元紙などを通じて広く周知していく。
・週3～4日の練習日を設定する予定だったが、仕事を持っている事務局員、指導者には負担が大きく、週2日（平日1日、休日1日）となった。平日の練習を増やしてほしいという保護者や団員の声に応える方法を模索する。
・②学校単独型は、5校に指導者を派遣。（計画は4校）学校外での活動は移動に課題があり、指導者派遣を希望する学校が多いが、令和5年度には全校の部活動を地域文化倶楽部の地域合同型バンドに移行する。ともなって、市内を3地区程度に分け、活動拠点も3か所にするなど送迎距離に配慮したい。
・学校をまたぐ合同団体であるが故に、感染防止の観点から活動自粛期間が長引いた。学校毎に、部屋を分けて個人練習をする方法も試行した。

〇令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

・令和5年度の「大館市地域文化倶楽部」の本格実施に向けて、令和4年度内に市教育委員会生涯学習課へ説明・要望をしながら組織・予算を確保したい。
・地域・保護者・学校への説明を、様々な機会を捉えて周知と協力要請をしていく。
・学校部活動としての廃部にともない、各校に保管されている備品楽器をどのように管理・活用していくか市教育委員会学校教育課と協議をもつ。
・事務局スタッフ、指導者については、テダオーレが主体となりながらも、市内社会人吹奏楽団にも協力を要請する。登録した指導者を、必要な場面で派遣していく。
・保護者会を設立し、運営面での補助ができる体制をつくる。
・市内の文化関係団体と連絡のとれる体制をつくる。パイプ役に留まらず、苦情対応、学校との連絡調整等できる立場を確立していく。
・部活動からの全面移行にともない、現大館ジュニアバンドを3団体立ちあげ、地区ごとの活動と3団体合同の活動など、年間を通した活動形態を工夫する。また、発表の場を確保する。
・団員や保護者、指導者の声を聞くための評価やアンケート調査を年間計画に位置付ける。運営については、PDCAのサイクルで改善に向ける。
・小学生から社会人までが吹奏楽を共に楽しむ、専門的な指導が提供できる社会教育団体として認知され、市に根付かせていくことを目指す。

参加者 （予定人数）	小学校3年生～6年生 中学校1年生～3年生　（合わせて40名程度）
募集方法	学校を通じてのチラシ、生涯学習課のポータルサイト等による周知、地元新聞への活動紹介等の掲載、文化会館等へのポスター掲示
指導者	専門講師として、吹奏楽指導経験者　1名 事務局となるテダオーレ　10名 地域社会人吹奏楽団　3名
移動手段	保護者による送迎
活動費用	団費として、一人1ヶ月2000円 ・大会や演奏会への参加費・プログラム代 ・スポーツ安全保険 ・楽譜購入等消耗品 ・専門講師への謝金
スケジュール	4月：事業説明（市校長会・教頭会）、保護者への通知、協力団体への依頼 新規団員募集、大館ジュニアバンドの活動開始 5月：基礎講習会 6月：大館地区吹奏楽祭出演 7月：秋田県小学生バンドフェスティバル出演 8月::市教育委員会への地域文化倶楽部創設に係る要望提出 9月：地区音楽の広場出演 10月：令和5年度地域文化倶楽部創設に係る関係団体への説明会 団員、保護者、指導者へのアンケート実施 12月：アンサンブルコンテスト出演 1月：単独発表会、次年度の団員募集 2月：地域文化倶楽部創設に向けた準備、市校長会・教頭会への説明 3月：年度の活動総括
保険加入等	指導者・団員とも、スポーツ安全保健に加入（団費より）

【活動の様子（写真添付）】

◆練習風景

専門講師による大館ジュニアバンドと市内スクールバンドの合同指導（5月）

テダオーレによるパート毎の基礎指導や譜読み（毎週木・土曜日）

中学生も先生として、小学生に指

アメリカで吹奏楽を経験してきた外国人語学実習助手も指導（12月）

◆発表会風景

大館ジュニアバンド団員の所属校の学習発表会でのステージ、テダオーレが応援演奏（9月）

大館ジュニアバンドとテダオーレ、スクールバンド2団体の合同ステージ